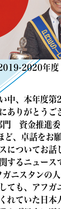
創立　1963年3月16日

Rotary 上尾ロータリークラブ

2019-2020年度R.I.テーマ
ロータリーは世界をつなぐ

第2808回　例会
2019. 12. 12

会長あいさつ



2019-2020年度　須田 悦正 会長

皆さまこんにちは。本日はお忙しい中、本年度第21回例会に多数の皆さまにお越しいただきまして、誠にありがとうございます。国際ロータリー2770地区ロータリー財団部門 資金推進委員長 松村繁雄、ようこそいらっしゃいました！　後ほど、卓話をお願いいたします。

さて、昨日、ブルガリアでのニュースについて話しさせていただきます。アフガニスタンの中村医師に関するニュースです。中村医師は「100人の医者より1本の水路がアフガニスタンの人々を救う。」という志のもと、家族と離れ離れに暮らしても、アフガニスタンの為に尽力されてきました。また、協力してくれていた日本人が誘拐殺害された事件があった後は、日本人を一人残らず日本に戻し、一人でアフガニスタンの人々と働いていました。そんな中村医師が殺害されたのは、驚きと悲しみを強く感じました。これは、ニュースでは伝えた記事の一部です。東京農業大学に留学しているクラブ・グルブディンさんの言葉です。グルブディンさんは、中村さんが殺害されたアフガニスタン東部ジャララバードで生まれ育ちました。中村さんに初めて会ったのは、2006年ごろ。ジャララバードにあるナンガルハル大学で農業を勉強していた時でした。学生数人で、当時中村さんが進めていた用水路の工事現場を訪ねました。「自分たちの身の回りにある、自然の資源を活用したほうがいい。」と中村さんは、グルブディンさんら学生にこう説明したと言います。コンクリートは使わず、砂漠で取れる石を金網に詰めて、用水堰止めるために使いました。グルブディンさんの自宅は、ジャララバード中心部から北の外れ、中村さんがかかわる建設現場に近かったそうです。自宅近くのガンベリ砂漠は高地にあるため、水分確保ができず民年の問題でした。中村さんたちは、低地にあるクナール川から用水路を造って水を引き、砂漠の一部を農業ができる土地にしました。グルブディンさんはその後も、中村さんが関わる用水路の建設現場を何度も訪れました。その時、多くの現地の人を動機づけたのが、中村さんが一人の労働者として働く姿だったそうです。「我々の国には寄付という形で、多くの国がプロジェクトや人を送り込んできた。彼らはマネジャーとして事務所で働き、携帯電話で報告を受けるだけで、現実を知りません。だが中村さんは全く違

Rotary
ROTARY CLUB OF AGEO

ました。自ら重機を動かし、重い荷物を運んでいました。」現場に行くと、中村さんは地元の人と同じ衣装を着ハシェトゥーン語をうまく話して作業員に交じっているので、見つけるのが難しかったというほどです。「日本人の勤勉さと誠実さを目の当たりにして、日本に行って勉強すべきだという夢をもらいました。」グルブディンさんは、そう振り返ります。

国連食糧農業機関（FAO）によると、世界では年間13億トンの食料が廃棄されているという一方で、8億人が飢餓に苦しんでいるとされています。アフガニスタンは、世界では貧しい国の一つです。1人当たり国内総生産（GDP）は500ドル（約55万5000円）ほどで、日本の約80分の1しかありません。3000万ほどの人口の約8割が農民というアフガニスタンでは、農業の安定が成長のカギといわれています。

グルブディンさんによると、現地の治安はいまも悪いままです。「母親は病弱、私の兄弟を見送る際「もう二度と会えないのではないか」と思っています。母親に（安全のために）『日本から戻ってくるな』と言われた時はショックでした。」

日本に住んでいては、このようなことも実感してあまり感じません。アフガニスタンの為に尽力していたのに、なぜこのようなことが起こるのだろうと疑問を抱くとき、人間の在り方を考えました。

どんな国にあっても、人々は、自分の幸せを追求するように、飢餓で子どもたちが死なないようにしているのに、見方によっては「悪」なのではないかと思います。

しかし、私から見たら多くの偏見を払って、見方をしている中村医師は素晴らしい人物に写ります。一方で、どんなに良いことをしても人間は「争う生き物」なのではないかと思います。自分たちのために、なるんだという概念よりも「争う」ことが上回ってしまうのではないかということです。

また、利権や社会が絡むから「争い」がおきるのではないかとも考えましたが、イデオロギーに遡っても「争い」があったようなので、やはり人間は「争う」生き物なのかと思います。争わないと生きていけない生き物なのだということです。

この問題に対する答えはまっさいのことだと思います。だからといって人類が物心崩壊で豊かに暮らせることは、生命を保てることは、世界中の人や動物が少いなく笑顔で生涯を全うできることを、どんな困難があろうとも追求し続けなければならないのだと強く感じたニュースでした。

私にできることはしんどいのですが、世界がより良くなることを少しずつ実践できたらと思っています。中村先生のように大きな犠牲を伝ふ覚悟がまだ私にはありませんが、ほんの少しの飲酒という娯楽を私い、少しでも困っている人に寄付をしたり、また、御朱印集めで神社に詣れ、お酒りをする際に「世界平和」を必ず祈願しています。ほんの小さな出来ごとを通して、世界中の人々の平和に少しでも貢献していきたいと思います。

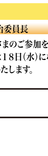
ボリオもその一環です。

「END　POLIO　NOW」

本日の会長挨拶は以上とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

幹　事　報　告

斎藤　修弘幹事



◇ダナン国際有住事業について：案内をFAXさせていただいています。申込期限は12月17日になっております。大勢の皆さまのご参加をお願いいたします。

◇12月末で年度の上期が終わります。上期に、クラブ事業、委員会活動等の費用を立て替えている方がいましたら、12月18日のクリスマス例会までに事務局に提出をお願いいたします。

◇12月2・22日に、上尾丸山公園の大池で「大小いぼり祭」が行われ、上尾西RCの会員さんから協賛依頼を受け、社会奉仕事業の一環として委員会費で約20本を須田商店さんから協賛をいただきます。

◇2019-20年度、ハワイでの国際大会のガバナーナイトは6月6日18時から開催されます。

◇RYLA研修セミナーが5月16～18日、福島県会津高原で開催されます。参加費は研修生4万円、ロータリアン5万円です。締め切りは2月20日です。希望者は幹事までお申しつけください。

委員長報告

親睦活動委員会　小田切　宏治委員長

来週のクリスマス例会には大勢の皆さまのご参加をいただきますようとうございます。寄付金は18日（水）になりますのでお間違いのないようお願いいたします。

Rotary
ROTARY CLUB OF AGEO

例　会　主　題

ロータリー財団について

地区R財団　資金推進委員会委員長　松村　繁樣

今年6～7クラブに卓話に行っており、どこのクラブでもまず「ポリオって知っていますか？」と聞いています。ロータリアンなら知っていて当然だと思いますが、詳しいことを意外と知らない方が多いようです。去年、2520地区の第8分区の1Mの基調講演の講演として呼ばれたので改めてポリオを学びました。あったもの？　絶滅して聞いたのは、ポリオは感染しても1000人のうち1人が発症するかしないかの確率だとのことです。逆を言うと1人発症したら、その周囲には1000人の感染者がいるということになります。根絶できない理由として、パキスタンとアフガニスタンの2国は、鈴李地域なためもあるためか、ワクチンを投与しようと思ってスタッフが子供の前まで行けてもワクチン投与を拒否する親がパキスタンだけでも10万人以上いるからです。アフガニスタンも含めたら20～30万人は拒否するでしょう。なぜ拒否するかというと、親御さんに恐怖はなくて、ワクチンのことをアメリカが開発した毒薬だと思っているからです。先ほど、須田会長の中村医師のお話にもあったように、私たちはポリオを根絶します。良いことをしようとしているつもりなのに、2国は悪だと思って拒否しているのです。なぜ残念ながら2国ではポリオ発症者が増えてしまい、根絶までにはまだ時間がかかるのかなぁと思っています。

さて本題に入ります。まずロータリー財団の歴史をご紹介します。R財団は1917年、当時の国際ロータリー会長アーチ・クランプさんが「世界でよいことをするため」の基金の設置を提案しました。しかし当初はほとんど寄付が集まらずにいたため事業も行われなかったようです。寄付が一気に増えたのは1948年、創設者ポール・ハリスが逝去したときで、「追悼は献花ではなく財団に寄付へ」という意志が世界のロータリアンに伝えられ、130万ドルが集まったそうです。R財団はそこまで多大な海外で勉強をする奨学事業を始めました。この奨学金を日本で2番目に利用した国際親善奨学生になったのは、先日亡くなった緒方貞子さん（日本初の国連難民高等弁務官）で、一生にわたってロータリーの奉仕・平和の精神を持ち続けてくださり、「『超我の奉仕』というロータリーのモットーに深い感銘を受け、これ、あれが私の人生の指針となってきました」という言葉を残していらっしゃいます。

「1：年次寄付」、「2：恒久寄付」、「3：ポリオ・プラス寄付」の3つしかありません。

1：年次寄付は、当地区では1人200ドルに設定されていて、上尾クラブさんは毎年100％達成されていますよね。R財団の一般寄付は、ほぼ100％が純粋に奉仕活動に使われることになります。これはすごいことで、他の国体では、良くても寄付された金額の70％くらいです。調べたら1割しか寄付が奉仕活動に使われていない国体もあります。ロータリーは100％奉仕活動に使いながら、その活動内容や活動費詳細も入念にチェックします。世界には約9,000の奉仕活動があるのですが、米国評価機関チャリティ・ナビゲーターによると、ロータリーの寄付活動やプログラムと奉仕の実施等は高く評価され、9,000もの団体の中で最高の評価、1位なのです。しかもその1位を12年間連続で受っています。だからぜひ、ご協力いただければと思います。

2：恒久基金という寄付があります。1クラブ、1,000ドルの寄付を1名以上してください。と言っています（50名以上のクラブは2名）。この寄付は1円

松村様、R財団についてわかりやすい卓話を拝聴してくださり、ありがとうございました。

たりとも捻れれず、ずーっと捻れればそれ。なので世界では何千億円という資金が貯まっているんです。そして2025年までに20億2500万ドル集めよう、つまり2500億円くらいを集めようと、となっています。このお金、使わずにどうするかというと、選用で増えたぶんだけを使います。選用して減ることはないのかと尋ねられることがありますが、過去20年間を調べたら4.5～5％の利益を出しています。

さて年次寄付の使い方ですが、年間6,000万円のうちの3,000万円はWFにまわり、残りの3,000万円が地区で使う権利がうえられます。このうち1,500万円が地区補助金として奉仕活動に使われます。上尾クラブさんは今年度、「見童自立支援施設・埼玉慰霊王学園にスポーツ用品の寄贈」という地区補助金を使ったプロジェクトをしていらっしゃいます。

3年前、私が財団の部門委員長をしていた時に特別枠を設けました。3年前100％達成クラブは1400ドル、未達成は800ドルです。また海外特別枠を作りました。2,000ドル×11クラブで、たどしこれはどんな事業も受け付けるわけではなくて、きちんと審査をして、価値が高い事業にのみ適用されます。これはクラブ・ハイ枠となっています。

グローバル補助金は特殊なケースで、大規模で長期に渡るプロジェクトは、この約金を使うと、例えば200万円使うと、WFにまわった3,000万円のうちから200万円が返ってくることになります。ロータリーの寄付は1円も無駄にならず、「難しい」と思われがちなのですが、決して難しくありません。

最後に、ロータリーカードはご存じでしょうかこ利用金額の0.3％が自動的にポリオ撲滅のための資金にまわりますので、ぜひロータリーカードを作ってご活用いただけると思います。以上になります。本日はお聞きいただきありがとうございました。

スマイル

松村繁樣(浦和東RC)　本日卓話させていただきます。よろしくお願いいたします

樋口会員　皆さん、インフルエンザに気をつけましょう！

長沼会員　須田商店様のチラシを印刷させていただきました。ご依頼いただきありがとうございました！

芳賀会員　娘のクリスマスプレゼントで悩んでいます。

丹井会員　久しぶりに例会に出席できました。

須田会員／斎藤修弘幹事／深澤副幹事／
戎畑会員／岡野会員／大塚信郎会員／村岡会員／
尾花会員／大保司会員／細野会員／齋藤博重会員／
藤村会員／野澤会員／坂本会員／春日会員／
小田切会員／大木崇寛会員

会員数	40
出席数	25
欠席数	15
出席率	62.50%